

自選シリーズ 現代日本の映画監督 6 石井岳龍

開催決定のお知らせ

2018年3月13日〔火〕－25日〔日〕
東京国立近代美術館フィルムセンター 大ホール

平素よりお世話になっております。

フィルムセンターの上映企画「自選シリーズ 現代日本の映画監督」は、1980年代以降の日本映画を牽引してきた映画監督に、自作から上映作品を選定していただき、そのデビューから現在までの足跡をたどることによって、現代日本映画の原点を探る試みです。これまで崔洋一、大森一樹、井筒和幸、根岸吉太郎、押井守の各監督に焦点を当て、好評を博してきました。

第6回目となる今回は、8mm自主映画で一躍注目を集め、続いて35mm劇場用長篇『狂い咲きサンダーロード』（1980年）『爆裂都市 BURST CITY』（1982年）など、映像と音響が渾然一体となって疾走するその衝撃的な作風によって、1970～80年代の日本映画のニューウェーブの旗手となった石井岳龍（旧名：石井聰互）監督にスポットを当てます。石井監督は、その後、人間の持つ広大な無意識や内面の探求へとテーマを変化させ、大学において映像教育に従事するようになった近年では、より多様なスタイルも採り入れながら、自分の理想とする映画に向け、挑戦を続けています。

上映作品等詳細は、決まり次第発表いたします。今後の周知へのご協力をお願いいたします。

<石井岳龍監督 プロフィール>

1957年1月15日福岡生まれ。1976年日本大学芸術学部入学。在学中に映画制作集団「狂映舎」を設立し、8mm映画『高校大パニック』（1976年）『突撃！博多愚連隊』（1978年）などで一躍注目される。その後の『狂い咲きサンダーロード』（1980年）、『爆裂都市 BURST CITY』（1982年）ではパンクロックの衝動を映像にまで昇華させるかのような独自の作風で多くの熱狂的ファンを生む。海外でも高い評価を得た『逆噴射家族』（1984年）の後は、ミュージックビデオや実験的短篇作品も数多く製作。劇場映画に限らず、「体験的な映画」を目指し、常に新たな表現を追い求め続けている。その他の主な劇場用監督作品には、『エンジェル・ダスト』（1994年、バーミンガム映画祭グランプリ）、『水の中の八月』（1995年）、『ユメノ銀河』（1997年、オスロ映画祭グランプリ）、『五条霊戦記 GOJOE』（2000年）、『ELECTRIC DRAGON 80000V』（2001年）、『生きてるものはいないのか』（2012年）、『シャニダールの花』（2013年）、『ソレダケ that's it』（2015年）、『蜜のあわれ』（2016年）がある。2006年からは神戸芸術工科大学教授として映像教育にも従事している。2010年に石井聰互から石井岳龍へ改名した。



『DEAD END RUN』で永瀬正敏（左）と

【企画名】自選シリーズ 現代日本の映画監督 6 石井岳龍 Directed by Gakuryu Ishii — His Own Selection
【日時】2018年3月13日〔火〕－25日〔日〕 ※月曜休館
【場所】東京国立近代美術館フィルムセンター 大ホール
【上映】石井岳龍監督作品 12 プログラム（各プロ2回ずつの上映）

○本企画に関するお問い合わせ
東京国立近代美術館フィルムセンター（事業推進室：白鳥、大澤、富田）
〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6 電話：03-3561-0823/FAX：03-3561-0830/E-mail：nfc-pr@momat.go.jp